

マラソンで好スタート！ 香川マラソン大会

1年の始まりに恒例となった元旦マラソン大会が、名和神社駐車場を発着点として行われました。好天にも恵まれ、名和神社には幼児から大人まで約120名の参加者が参集しました。

全員で初詣をしたあと、2キロと6キロのコースへ走り出していきました。参加者は、息を弾ませながら、思い思いのスタイルとペースで走り初めを楽しみ、さわやかな汗を流しました。



▲勢いよくスタート

与謝野晶子歌碑建立

詩や俳句を愛好する町民有志が、歌碑建立実行委員会を立ち上げ、寄付を募って建立されました。実行委員のメンバーは「大山町内からも多くの寄付をいただき、感謝でいっぱい」と話されました。

「大山寺 笹のいく葉の隠岐見えて 伯耆の海の美しきかな」

歌人・与謝野晶子が大山を訪れた際に詠んだものです。建立場所は、博労座第4駐車場の西側です。ぜひ、皆さん見に来てください。



開山1300年記念が取り持つ縁！

愛媛の高校生らが 大山で吟行句会

「秋しづか

神も仏も一山に」

大山開山1300年記念イベントで、大山の写真素材に俳句を詠む「大山を詠む！俳句コンテスト」が、10月20日に米子市で開催され、俳句甲子園全国大会の常連校でもある愛媛県の松山東、伯方、今治西高校の俳句部の生徒が、地元の中高生らと俳句で競い合いました。

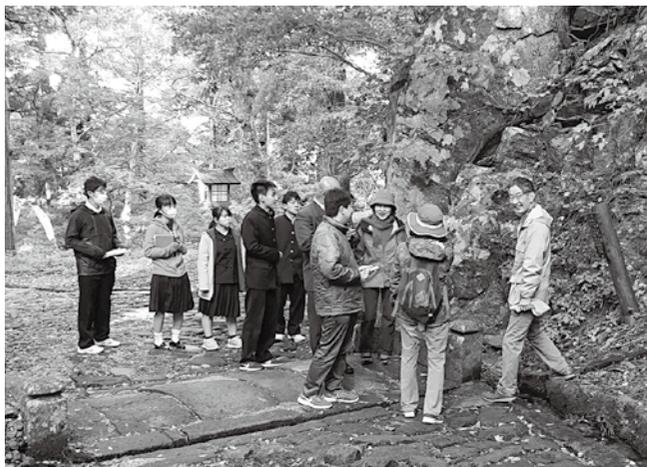
コンテストを終えた翌日、俳句部の生徒たちと顧問の先生は、写真ではない本物の大山を散策。案内役の地元の俳人らも加わって「大山吟行句会」が行われました。

初めての大山で、正岡子規の後輩の面々が詠んだ句はどれも心に残る句ばかりでした。冒頭の句は、今治西高校俳句部顧問の櫛部隆志さんが詠んだ句です。大山の静寂の中を巡りながら、松山東高校俳句部の中山寛太さんは若い感性で詠みました。

「山粧ふよそお

山の臓器の音がして」

大山がきっかけとなり、俳句を通じて交流が深まりました。



▶大山の歴史と自然を肌で感じる高校生